

政 策 10

～国際的な広い視野と平和を愛する心が育まれ、
松戸の歴史や文化・伝統が保持され、
後世に伝えられるようにします～

後期基本計画における「めざそう値」等一覧

【めざしたい将来像】

平和を大切にし、松戸を愛する人を増やすため、日本人も外国人も皆が松戸の歴史や文化・伝統が身近に感じられる工夫をこらして、誰もが誇りのもてる“ふるさと松戸”を実現します。

指 標		21年度	22年度	25年度	27年度 現状値	28年度 (注1)	32年度 (注2)
史跡や神社、仏閣など歴史・伝統文化遺産の満足度	めざそう値 (目標)	—	—	19.2%	—	21%	20%
	実績値	18.2%	18.0%	17.0%	19.7%		
文化・芸術に親しむ市民の割合	めざそう値 (目標)	—	50.5%	49.4%	—	50%	50%
	実績値	48.4%	47.0%	43.7%	45.4%		
外国籍市民と交流している人の割合	めざそう値 (目標)	—	4.5%	3.7%	—	4%	5%
	実績値	3.3%	3.2%	2.1%	3.3%		
外国人市民で暮らしに満足している割合	めざそう値 (目標)	—	83.0%	83%	—	84%	85%
	実績値	82.7%	82.7% (H19)	82.5%	30.5%		
世界平和都市宣言の認知度	めざそう値 (目標)	—	51.0%	54%	—	59%	60% (※)
	実績値	52.7%	52.2%	68.9%	67.1%		

(注1)平成28年度のめざそう値は、第5次実施計画でめざす目標値です。めざそう値(28年度)設定の考え方は、第5次実施計画に設定した「めざそう値」の指標解説によります。

(注2)平成32年度のめざそう値は、後期基本計画書に記載しているめざそう値を記入しております。その中で“(※)”の表記のあるものについては、第6次実施計画策定時に平成27年度の現状値などを踏まえ見直します。

政策10

国際的な広い視野と平和を愛する心が育まれ、松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにします

1.固有の文化・伝統に触れることができるようにします

1. 現況と課題

今から3万年前に松戸市域に人々が生活をはじめてから現在に至るまで、様々な人々の歴史が展開されてきました。幸田貝塚をはじめとする縄文時代の遺跡、東漸寺、本土寺、萬満寺といった古刹・名刹、江戸時代に宿場町として栄えた旧松戸宿や旧小金宿、旧徳川家松戸戸定邸などが本市の歴史や伝統を象徴的にあらわしています。文化財の指定状況は、国指定7件、千葉県指定5件、市指定40件になっています。

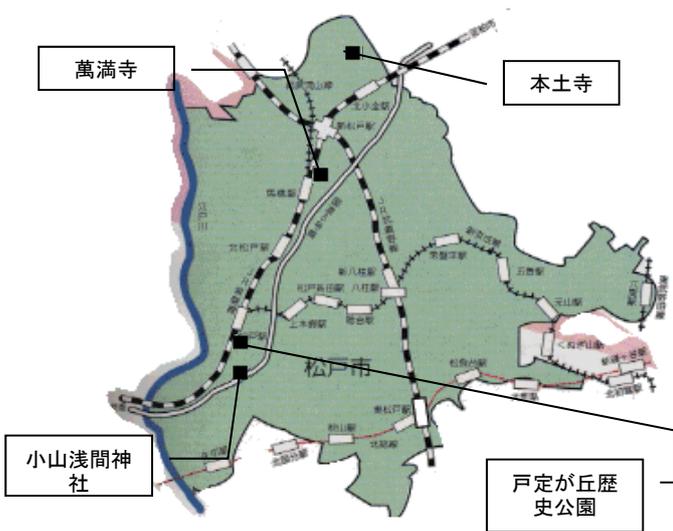
地域の歴史や文化を知ることは、自分の住んでいるまちを大切に思うことにつながります。文化財標識柱の設置などにより、市民が松戸の歴史や文化・伝統に関心をもち、また、後世に引き継げるように取り組んでいます。

【特筆すべきニーズの変化】

- ① 団塊世代の地域回帰や東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴う外国人観光客等の流入により市内の歴史的名所を探訪することが求められています(ニーズの増)
- ② 固有の文化・伝統に関わっている市民が、後世に引き継ぐための人材を強く求めています(ニーズの増)

●松戸市における指定文化財(国・県)

国	1	木造金剛力士立像	萬満寺
	2	大学三郎御書(日蓮筆)	本土寺
	3	諸人御返事(日蓮筆)	
	4	梵鐘「建治四年在銘」	
	5	千葉県幸田貝塚出土品	市立博物館
	6	旧徳川家松戸戸定邸	松戸市
	7	旧徳川昭武庭園(戸定邸庭園)	
県	1	浅間神社の極相林	小山浅間神社
	2	松戸の万作踊り	万作踊り松戸保存会
	3	富城殿御返事	本土寺
	4	本土寺過去帳	
	5	銅透彫華籠	



●木造金剛力士立像(萬満寺)



●松戸の万作踊り



●千葉県幸田貝塚出土品



出典 松戸市ホームページ

2. 施策の展開方向

郷土の歴史や伝統・文化を市民に知ってもらうため、文化財の基礎調査を進め、標識柱や案内板を整備します。

市立博物館については、「見て・触れて・身体で感じる」とする基本コンセプトは守りつつ、資料の展示方法の改善や展示替えを行い、リピーターにも新しい発見ができるよう創意工夫を凝らしていきます。

戸定邸及び戸定歴史館については、隣接する千葉大学松戸キャンパスの緑、イタリア式庭園、フランス式庭園などとの連携も視野に入れつつ、戸定が丘緑地の文化的資産を市民と協働して活用し、若手芸術家などとの連携による芸術の創造なども図りながら、より複合的に魅力を高めていきます。

3. 施策を推進していく上での課題

歴史文化の保存活用を推進していくためには、地域に愛着や誇りを認識する機会を増やしていく必要があります。市民、地域で活動する団体、企業と連携し、文化的価値を次世代へ伝えていくこと、周辺環境に配慮しながら、地域のアイデンティティの活性化へつなげていくことが課題です。

【特筆すべき松戸の強み・弱み】

- ① 郷土の歴史や文化の保存・伝承、郷土を知るための普及活動や情報発信ができる博物館と戸定歴史館があります（強み）
- ② 戸定邸（国指定重要文化財）は、全国で唯一、一般公開されている徳川家の住まいで、その庭は国の名勝に指定されています（強み）
- ③ 伝統芸能を受け継ぐ人材が少なく、伝承が危ぶまれています（弱み）

●博物館展示内容(平成26年度)

事業名	内容	人数
総合展示	旧石器時代から現代までの歴史を展示解説	17,052
野外展示(縄文の森)	縄文時代の復元竪穴住居	17,421
映像展示(ミュージアムシアター)	歴史や文化に関する映像ソフトの上映	4,660
企画展	「Plastic? / Plastic! 高度経済成長とプラスチック」	2,641
館蔵資料展1	「錦絵にみる富士山」	4,029
館蔵資料展2	「縄文人の祈りとメッセージ」	3,611
館蔵資料展3	「重要文化財・幸田貝塚出土資料展」	494
学習資料展	「昔のくらし探検」	9,656

出典 博物館資料

●博物館体験教室(こども)(平成26年度)

事業名	内容
こども体験教室「米づくりと展示づくりー小学生学芸員になろうー」	21世紀の森と広場内の水田を利用して米づくりを体験し、展示製作と発表まで行う
こども体験教室「勾玉(まがたま)をつくろう」	勾玉の製作を体験する
こども体験教室「土鈴をつくろう」	縄文時代の土鈴製作を体験する
こども体験教室「郷土玩具をつくろう」	郷土玩具パタパタの製作を体験する
昔のくらし体験教室「自分でつくる糸と布」	綿から糸をつむぎ、高機で布を織る
昔のくらし体験教室「風呂敷を使ってみよう」	風呂敷の使い方を体験する
昔のくらし体験教室「桶を担いでみよう」	天秤棒を使った桶の担ぎ方を体験する
紙芝居と昔の遊びを楽しむ日	紙芝居、メンコ、コマなどの昔のこどもの遊びを体験する
プレイルーム	編布体験、コースター作り、糸車体験

●博物館体験教室(一般)(平成26年度)

事業名	内容
古文書を読む(近世入門編)	初心者を対象にした近世史料の読解と解説
古文書を読む(近世中級編Ⅰ)	経験者者を対象にした近世史料の読解と解説
古文書を読む(近世中級編Ⅱ)	経験者者を対象にした近世史料の読解と解説
中世史料を読む	中世史料の読解と発表
博物館の民俗学	博物館民俗学の講義と討論
体験教室「裂き織りをしてみませんか」	布を裂いて糸を作り、高機で布を織る
体験教室「自分でつくる糸と布」	綿から糸をつむぎ、高機で布を織る

出典 博物館資料

●戸定歴史館 展覧会開催状況(平成26年度)

タイトル	展示区分	開催期間(日間)	入館者数(人)
戸定邸落成130年 プリンス・トクガワ	通常展	71	5,629
夏季展 坂川・江戸川水景色	通常展	57	3,095
戸定邸落成130年 プリンス・トクガワの屋敷	企画展	80	7,190
プリンス・トクガワ 徳川昭武が愛した庭	通常展	45	4,606

出典 松戸市の社会教育

●戸定邸



建築 明治17年(1884年) 面積 725平方メートル
構造 木造平屋一部2階建て

出典 松戸市ホームページ

政策10

国際的な広い視野と平和を愛する心が育まれ、松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにします

2.文化・芸術活動を振興します

1. 現況と課題

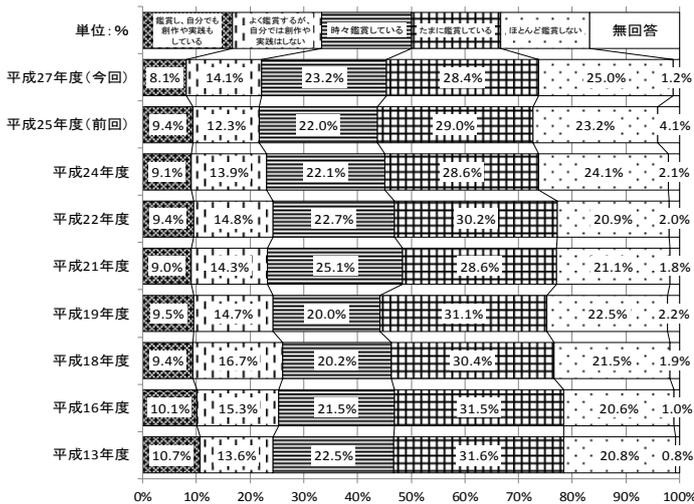
本市では、市民の文化芸術活動やスポーツ活動などを支援し、豊かな人づくり、まちづくりを進めています。

市民意識調査によれば、「文化・芸術に親しむ市民の割合」は、平成13年度46.8%でしたが、平成27年度45.4%と減少しています。なお、本市の文化施設は、近隣他市と比較して数多くありますが、昭和39年に建設された市民会館をはじめ老朽化した施設もあり早急な対応が求められています。

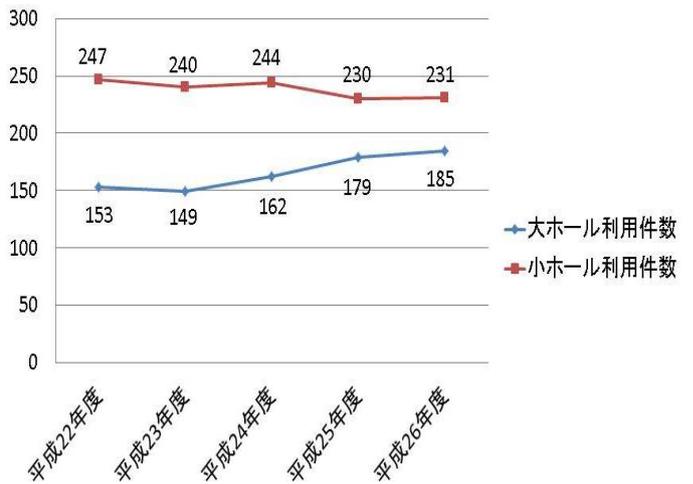
【特筆すべきニーズの変化】

- 文化・芸術活動をしている人は、自らの活動を発表し、多くの人に見てもらいたい場、機会を求めています（ニーズの増）

●文化・芸術に親しむ市民の割合



●文化会館利用件数の推移

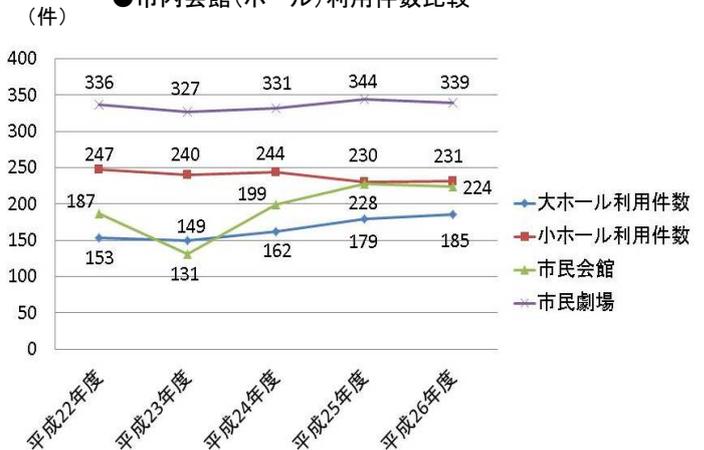


●文化施設の他市との比較

市名	名称	客席数	計
松戸市	文化会館	大ホール: 1,955 小ホール: 516	4,015
	市民会館	ホール: 1,212	
	市民劇場	ホール: 332	
	市民文化ホール	1,000	
船橋市	市民文化創造館	きららホール: 264	1,264
	市民文化ホール	1,000	
市川市	文化会館	大ホール: 1,945 小ホール: 448	3,032
	行徳文化ホールI&I	639	
	市民文化会館	大ホール: 1,338 小ホール: 300	
柏市	市民文化会館	大ホール: 1,338 小ホール: 300	2,038
	アミュゼ柏	クリスタルホール: 400	

出典 各市ホームページ

●市内会館(ホール)利用件数比較



2. 施策の展開方向

文化芸術を振興するため、松戸ゆかりの芸術家の演奏会を開催するとともに、美術作品の展示を行っていきます。また、市内の文化団体の活動を支援するとともに、協力して展覧会の開催などを行っていきます。舞台芸術については、公益財団法人松戸市文化振興財団を支援することで、国内外の優れた舞台芸術が身近で鑑賞できるようにします。

今後、文化施設の老朽化に伴い、適切な維持管理により延命化を図るとともに、市民会館から戸定歴史館、千葉大学園芸学部までの地域については、より文化的資産の価値を高めるため、一体的な検討を進めていきます。

3. 施策を推進していく上での課題

市民ニーズに合った質の高い文化芸術を提供していくためには、施設の老朽化への早急な対応が必要です。

【特筆すべき松戸の強み・弱み】

- 市民劇場、文化会館（森のホール21）などの発表の場が多くあります（強み）

●鑑賞事業（平成26年度実施）

部門	件数	入場者数	内容
親子イベント	2	4,548人	親子映画鑑賞会 おかあさんといっしょ
伝統芸能	3	2,173人	第5回 チャリティ寄席 中村扇雀「初めての歌舞伎」 桂文枝 新春落語会
クラシック	1	1,607人	牛田智大withニューフィル千葉
ポピュラー・歌謡曲	1	1,432人	オレンジレンジ コンサート
演劇・ミュージカル	1	1,370人	高校演劇フェスティバル
その他	2	2,443人	千葉県警察音楽隊コンサート 小中高等学校受賞記念発表会
計	10件	13,573人	

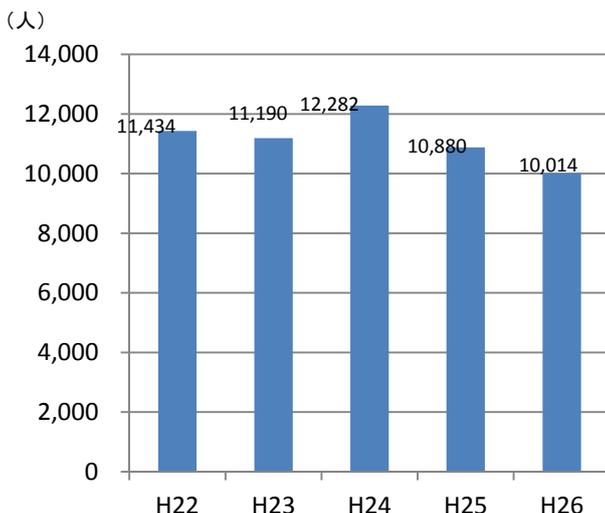
出典（公財）松戸市文化振興財団事業報告書

●松戸市民コンサート

第22回 (H22)	ベートーヴェン「交響曲第9番 合唱付」 入場者数 1,950人
第23回 (H23)	カルミナ・ブラーナ演奏会 入場者数 1,629人
第24回 (H24)	ブルックナー「テ・デウム」 入場者数 1,700人
第25回 (H25)	ベートーヴェン「第九」 入場者数 1,955人
第26回 (H26)	モーツァルト「レクイエム」 入場者数1,700人

出典 松戸市の社会教育

●プラネタリウム(市民会館)利用実績



出典 市民会館資料

●文化会館(森のホール21)



出典 松戸市総合計画

●文化ホール



出典 生涯学習推進課資料

●プラネタリウム(市民会館)



出典 市民会館資料



政策10

国際的な広い視野と平和を愛する心が育まれ、松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにします

3.国際化の推進と平和意識を高めます

1. 現況と課題

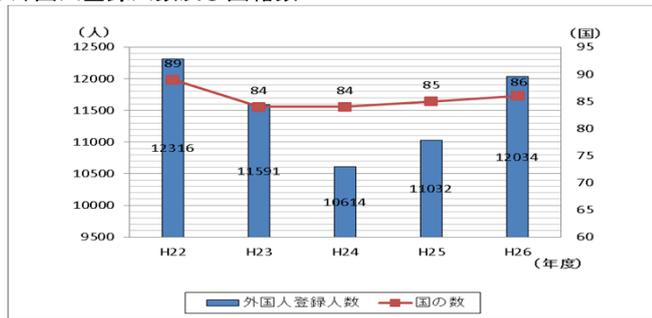
国際化の進展に伴い、本市においても外国人市民の数は年々増加し、平成24年7月6日現在、88カ国11,288人が居住しており、市民約43人に1人は外国人であるという状況です。しかし、市民意識調査によれば、「外国籍市民と交流している人の割合」は、平成21年度に3.3%であったものが、27年度も3.3%と変化が無く、交流はわずかです。民族文化や生活習慣の違い、言葉の問題等による誤解や摩擦等が生じることもあり、同じ地域の住民として、相互理解を図り、協力して住みよい地域社会をつくっていく必要があります。

また、国家間の紛争や、テロの台頭による緊張の高まりは、様々な形で世界的な平和が脅かされている中で、戦争を体験した人の数も少なくなり、平和に関する意識も風化の様子が見受けられてきております。今後も、平和に対する認識を深め、その大切さ、尊さを後世の人に語り伝えていく必要があります。

【特筆すべきニーズの変化】

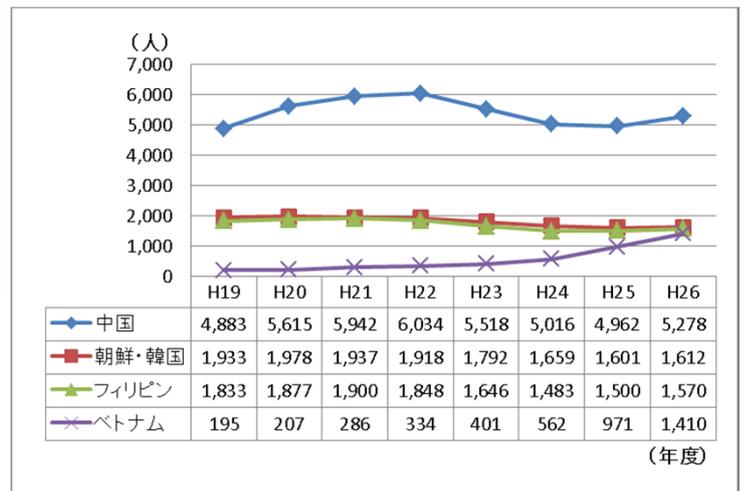
- ① 外国人市民が、日常生活を暮らしやすくするための支援を求めています（ニーズの増）
- ② 戦争体験者が減少し、多くの人が戦争体験がない世代へ平和意識を浸透させることを求めています（ニーズの増）

●外国人登録人数及び国籍数



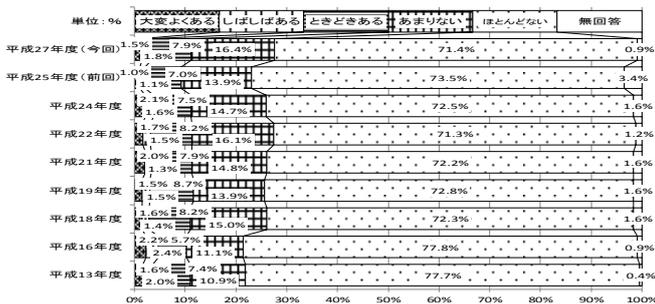
出典 市民課資料をもとに作成

●外国人登録上位4カ国



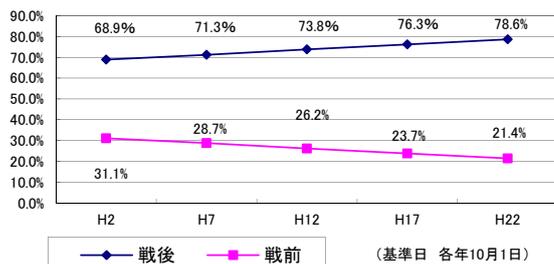
出典 市民課資料をもとに作成

●外国籍市民と交流している人の割合



出典 松戸市市民意識調査(平成27年度)

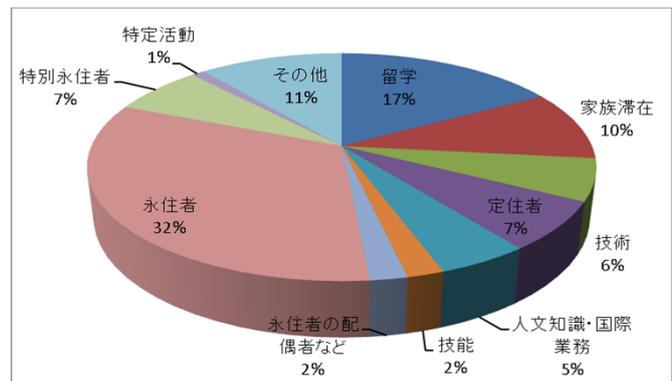
●戦前・戦後生まれ人口(構成比)の推移



(基準日 各年10月1日)

出典 国勢調査をもとに作成

●外国人登録者の在留資格(平成26年度)



出典 市民課資料をもとに作成

2. 施策の展開方向

今後も増加が予想される外国人市民が、松戸市民として、安全で快適な生活を送れるようにします。そのため、外国人市民が公平なサービスを受けられるように情報の提供及びその手段の更なる充実にあります。また、多文化共生意識と相互理解の促進を図るため、外国人市民と日本人市民の交流の場を増やします。

さらに、昭和46年より続いているオーストラリア・ホワイトホース市との姉妹都市交流事業を推進するとともに、カンボジアへの支援などのように、本市でできる範囲での海外支援を行い、それをきっかけとした文化や教育、経済など様々な分野での国際交流を図ります。

また、昭和60年にあらゆる核兵器の廃絶と世界の恒久平和を念願し行なった「世界平和都市宣言」の理念に基づき、平和の大切さを訴え、意識の高揚を図っていくための平和事業を充実し、戦争の体験を風化させないための啓発や継承などの取り組みを推進していきます。

3. 施策を推進していく上での課題

外国人市民と日本人市民との地域交流が進む中では、民族・文化や生活習慣の違い、言葉の問題等による誤解や摩擦が生じることもあるため、互いをより理解できるような機会や情報の提供が必要です。

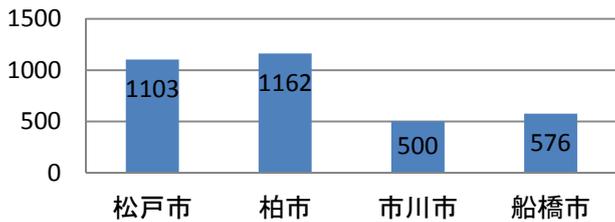
また、外国人市民に対する環境整備や情報提供の他に、訪日外国人観光客が増加している中で、本市としても受け入れ環境の整備・新たな観光資源の掘り起こしなども必要であり、本市の魅力が日本国内のみならず、海外にも広く伝えることも重要です。

戦争体験者が高齢化し、当時の悲惨さを知る術が少なくなっている中、平和の大切さを継承していくことが課題であることから、平和大使と共に若い世代を巻き込んだ平和事業を実施し平和の大切さを伝えていくことが重要です。

【特筆すべき松戸の強み・弱み】

- ①公益財団法人という公益性の高い法人格を持つ国際交流協会を拠点として、外国人市民の会員を組織化しています（強み）
- ②平和大使として被爆地の長崎へ市内の中学生を派遣する取り組みを行っています（強み）

(人) ●各市の国際交流協会会員数(平成28年1月現在)



※ 松戸市：公益財団法人
市川市・船橋市：任意団体
柏市：NPO法人
出典 国際交流担当室資料をもとに作成

●国際交流協会事業(平成26年度)

事業名	内容	参加人数
1 第19回松戸国際文化祭	国際色豊かな世界の文化紹介	入場者数 1,100人
2 第22回国際交流パーティー	楽しいアトラクションを交えたの交流パーティー	428人
3 第33回高校生英語スピーチコンテスト	英語を母国語としない高校生を対象にしたスピーチコンテストと表彰	入場者数120人 出場者数16人
4 第33回青少年姉妹都市派遣	姉妹都市でのホームステイプログラム	派遣数10人
5 第23回外国人日本語スピーチコンテスト	日本語に励む外国人の学習成果の発表機会	入場者数120人 出場者数13人
6 第39・40回世界の料理教室	料理を通じた異文化交流	2回延べ35人
7 日本語学習支援	初級日本語教室	ボランティア講師202人 年間受講者数 696人
	対象：外国人	
	運営：日本語ボランティア会	
10 語学講座	日本語教育講演会	3講座のべ49人
	ロシア語	
	スペイン語	
	中国語講座	
15 第28回ワンデートリップ	日帰りツアー	19人
16 まつど国際文化大使	団体への大使派遣	のべ25人
17	委嘱式・懇談会	委嘱式 79人
18 MIEAみいあ世界めぐり	各国の文化や習慣の紹介	6講座のべ145人
19 第41回松戸まつり	松戸まつりへの出店	
20 会報「和&輪」発行	協会の年報	2000部
21 会報「みーあすてーしょん」	年6回発行	各1000部×6冊
22 ホームページ作成	日本語・英語・中国語版	通年

出典 国際交流担当室資料

●平和啓発事業(平成26年度)

事業名(講座タイトル)	件数及び参加者数等
平和大使長崎派遣	22名(市内中学生対象)
平和の集い「地球のステージ1」	135名
平和パネル・ポスター展	ポスター 18枚 俳句等 82作品
戦時中の食事体験講座	58名
平和短歌・俳句・川柳・絵はがき募集	82作品
戦争体験講話	戦時中の食事体験講座時実施
非核宣言自治体協議会参加	職員3名参加
折り鶴送呈	7,200羽 長崎市へ送呈
平和語り部	11回開催

●世界平和都市宣言

出典 総務課資料

我が国は、世界で唯一の被爆国である。何人も平和を愛し、平和への努力を続け、常に平和に暮らせるよう均しく希求しているところである。しかし、現下の国際情勢は、緊張化の方向に進み市民に不安感を与えている。かかる状況に鑑み、松戸市は日本国憲法の基本理念である 平和精神にのっとり、平和の維持に努め、併せて非核三原則を遵守し、あらゆる核兵器の廃絶と世界の恒久平和の達成を念願し、世界平和都市をここに宣言する。

昭和60年3月4日 松戸市

●平和大使 長崎派遣(平成20年度から平成27年度までに154名を派遣しています)



出典 総務課資料

